

# 浜松市モビリティサービス推進 コンソーシアム

## 第3回会議

Digital Smart City HAMAMATSU

令和2年12月10日





- 1 開会
- 2 共同幹事挨拶
- 3 会員の申込状況
- 4 浜松版MaaS構想（素案）
- 5 浜松市内のモビリティ関連のプロジェクトについて
  - (1)春野医療MaaSプロジェクト
  - (2)テレワークパーク構想
  - (3)自動運転による超小型モビリティの公道走行
  - (4)アイデアソン後の動向
    - ①キッチンカーシェアプロジェクト
    - ②第三の家族 子育てコミュニティをつなぐボット
- 6 意見交換
- 7 閉会

## 2 共同幹事挨拶

Digital Smart City HAMAMATSU



- 浜松市  
デジタル・スマートシティ推進事業本部長 朝月 雅則
- 遠州鉄道(株)  
取締役 野村 和徳
- スズキ(株)  
次世代モビリティサービス本部 コネクテッド部長 熊瀧 潤也

# 会員の申込状況

- 一般会員57団体からの申込（令和2年12月3日時点）。
- 第2回会議（令和2年8月26日）時点の42団体より、一般会員15団体が新規会員に。

No.	法人名	No.	法人名
1	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	11	株式会社VERTechs
2	株式会社アインホールディングス 経営企画室	12	パイオニア株式会社
3	株式会社オートテックジャパン	13	浜松交通株式会社
4	金子コード株式会社	14	株式会社みずほ銀行浜松支店
5	株式会社スカイピーク	15	株式会社三菱UFJ銀行浜松支店
6	株式会社ゼンリンデータコム		
7	株式会社ソミックマネージメントホールディングス		
8	トヨタ車体株式会社		
9	トレンドマイクロ株式会社		
10	PerceptIn Japan 合同会社		

## 4 浜松版MaaS構想（素案）



## ～ デジタルで“繋がる未来”を共創 ～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoLの向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。



## 推進体制とエコシステム

官民共創によるまちづくりを進め、「地域課題の解決」と「イノベーションや新たなビジネスを創出」するエコシステム（好循環）を形成します。



### 【推進体制】

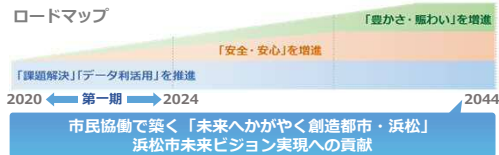
- 「浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム」(PF) を中核に官民共創でデジタル・スマートシティを推進。
- PFは各分野の推進組織と連携し、分野間連携とデータ活用を推進。
- PFは民間主導のプロジェクトの創出を支援し、市民目線で地域のプラットフォーム及びコーディネーターの機能を担う。

### 【目指すエコシステム】

- ベンチャーなどから課題解決のアイデアやソリューションの提案を受け、実証実験を実施。
- 実証実験は「国土縮図型都市・浜松」の多様なフィールドを活用。
- トライ&エラーを繰り返して、社会実装へとつなげる。

市民は、実証実験への参加やサービスを選択する形で「市民QoL向上」に貢献。

企業は、地域課題の解決に貢献することでイノベーションや新たなビジネス創出の機会とする。



## デジタルで“繋がる未来”の概観

デジタルの力を最大限に活用し、課題解決型のアプローチと未来に夢と希望を持てるチャレンジを組み合わせることで、ヒト・モノ・コトを繋ぎ、“繋がる未来”を創造します。



遠隔医療やIoTを活用した見守りでどこでも安心して生活。AIがデータに基づきお薦めの食事や運動を紹介してくれて、いつまでも健康に生活。

高齢者や障がい者、外国人、女性、誰もがデジタル技術に支えられ、社会と繋がって、それぞれの力を発揮。

デジタル活用で世界と音楽で繋がり、デジタル・音楽・芸術が融合した新たな文化を浜松から発信。

世界の学校と繋がりオンライン留学。AIが自分にあった学習メニューを推薦。年齢に関係なく、誰でも多様な学ぶ機会があり、いつでもチャレンジ可能。



ドローンやロボットの活用で省力化と生産性が向上。AIやビッグデータを駆使し、付加価値が向上した備かる農林業が実現。



どこにいてもドローンで好きなもの・サービスがいつでも届く。免許を返納してもライドシェアや自動運転で自由にどこへでも移動。



スマホ1台でどこでもいつでも簡単手続。必要な情報は必要な時に届き、困ったときは、24時間、AIコンシェルジュが対応。職員の対面相談も選べる、便利で安心な市役所。



センサーのデータやAI予測により危険を回避。被害を最小限に抑え、災害の状況もリアルタイムで可視化。大切な人や情報、支援に繋がりが安全・安心な社会を実現。

### デジタルで“繋がる未来”のキーワード

- 人と人が繋がる（リモートでの見守りや面会、相談、帰省等）
- 社会と繋がる（高齢者や障がい者、外国人、女性等の社会参加をサポート）
- 都市部と地方が繋がる（リモートワークや多拠点居住の促進）
- サービスが繋がる（遠隔教育、遠隔医療、遠隔鑑賞等）

## 第一期（2020年度～2024年度）における重点取組分野

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、①本市の強みを活かした取組、②ウィズコロナ、ポストコロナのニューノーマルや安全・安心への対応、③課題解決型アプローチによる持続可能で包摂的な社会の構築に向けた取組、④推進基盤の構築や強化に重点的に取り組みます。

### ウエルネス

- 「予防・健康都市浜松」実現に向けた官民連携
- 健康情報を活用した生活習慣病等の予防・改善
- 介護ロボット等の活用による介護従事者の負担軽減
- AI等を活用した健診（検診）の受診率向上

### 音楽文化・エンターテインメント

- デジタル技術を活用した文化事業の実施
- ニューノーマル時代のエンターテインメントの新たな楽しみ方の創出と普及
- インターネットを活用した音楽文化等の発信とリモートによる国際交流の推進

### モビリティ

- モビリティとサービスの連携による持続可能なまちづくりの推進
- モビリティサービス推進コンソーシアムを中核とした官民連携によるプロジェクトの創出
- 医療MaaSの推進
- デリバリープラットフォームの推進
- テレワークパーク構想の推進

### インフラ

- ドローンやセンサー等の活用によるインフラの老朽化対策
- 点群データなどインフラ情報のデジタル化
- 都市のデジタル化推進におけるインフラの利活用や高度化の検討

### 産業（ものづくり・農林業）

- 国土縮図型都市・浜松のフィールドを活用した新たなサービスやソリューションの創出
- サテライトオフィス等を活用したベンチャー企業等の誘致
- スマート農林業の推進
- 中小企業の生産性向上に向けたIT・IoT等の活用支援

### 商業・観光

- デジタル・マーケティングの活用による情報発信
- 新しい生活様式に即した観光の活性化と賑わいの創出
- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- キャッシュレスの推進
- デジタルを活用したインセンティブ付与による誘客や消費活性化の研究

### 社会参加促進

- AIやICT等の活用による障壁の除去
- バリアフリー情報等のオープンデータ化の促進
- 情報へのアクセシビリティの向上
- ICT技術やSNS等を活用した市民参加の促進
- シニア向けスマホ講座等の充実

### エネルギー・循環型社会

- 「浜松市域“RE100”」の実現に向けた推進
- スマートコミュニティ、スマートタウンのモデル構築
- スマートプロジェクトの実現
- 新清掃工場及び新破碎処理センターをモデルとしたサーキュラーエコノミーの推進

### リモートワーク・多拠点居住

- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- リモートワークやテレワークの推進
- テレワークパーク構想の推進
- 副業・兼業人材の活用促進

### 教育・子育て

- GIGAスクール構想の実現に向けた教育環境整備
- オフライン授業とオンライン授業のハイブリッドによる持続可能な教育の推進
- ICT等を活用した子どもや子育て世代への効果的な情報提供や相談体制の構築

### 見守り・災害対応

- IoT等を活用した高齢者や子どもの見守り推進
- 災害予測や災害状況の効果的な把握
- 災害関連情報の効果的な提供
- 避難所の効果的な3密対策

### デジタル・ガバメント

- 書面規制・押印・対面規制等の見直し
- 行政手続きのオンライン化やキャッシュレスの推進
- マイナンバーカードの取得促進とマイナンバーカードを活用した行政サービスの拡充
- 多様な伝達手段による情報の提供
- AIやICT等の活用による生産性の向上
- DX推進に向けた職員の人材育成

### 人材育成

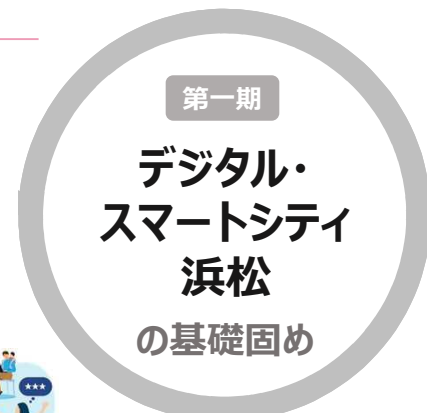
- 次代を担う若者の育成
- データ利活用に関するセミナーやハッカソン等の開催
- シニア向けスマホ講座等の充実
- 人材育成におけるリモートやオンラインセミナー等の活用
- 人材育成における大学やCode for Japan等との連携

### 通信基盤等の整備や利活用促進

- 中山間地域等への光ファイバ網の整備支援
- 5Gアンテナ基地局の設置や利活用の促進
- 各種通信（高速・低速等）活用の事例の共有と横展開
- 活用事例の創出やニーズ喚起による各種通信インフラ整備の働きかけ

### データ連携基盤の整備やオープンデータの拡充

- データ流通のハブとなるデータ連携基盤の整備と利活用
- データ連携基盤の活用事例の創出（Ori-Projectの推進）
- オープンデータプラットフォーム（ODPF）の整備と利活用
- 点群データのオープンデータ化と利活用促進



## 背景

- 国は、骨太の方針で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、地方都市の活性化に向けた環境整備の推進を位置づけています。移動環境の整備は重要施策の一つであり「日本版MaaSの推進」等の取組が成長戦略に位置づけられています。
- 本市は、人口減少・少子高齢化を背景に、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面しています。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティの連携による持続可能なまちづくりが求められています。
- 本市は「デジタルファースト宣言」のもとデジタル・スマートシティの取組を始動。データ活用等でMaaSの取組との連携が求められています。
- Withコロナ/ポストコロナ時代の「ニューノーマル」に対応した新たな環境整備の一つである「デュアルモード社会」の構築も求められています。

## 活かすべき本市の強み

- 多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境（国土縮図型都市／交通至便）
- 市民・企業のやまゝが精神や共助の心
- ものづくり力（世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカー等の集積／スタートアップグローバル拠点都市）

## 目指す方向性（基本理念）

### ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と、浜松の暮らしはもっとかがやく

人口減少・少子高齢化で限られた資源（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。さらに、“繋ぐ”ことでヒトの移動に留まらない価値を創出し、浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

#### 必要な視点1：地域ごとの魅力の最大化

都市部から中山間地域まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の多様な魅力を最大化します。

#### 必要な視点2：ともに支え、ともに創造

人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。

#### 必要な視点3：しなやかに繋がる

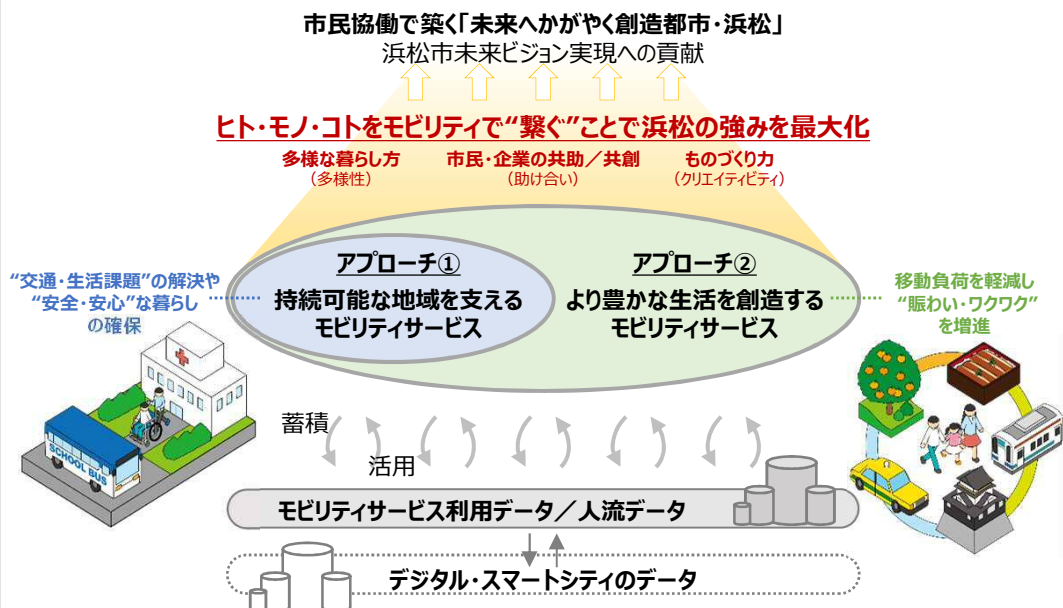
利用者目線のシームレスなサービスや自然災害・パンデミックへの備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します。

#### 必要な視点4：市民起点でのまちづくり

デジタルテクノロジーは手段として捉え、市民の生活ニーズを発想します。

## MaaS推進の考え方

喫緊の課題への対応（アプローチ①）と、未来へのチャレンジ（アプローチ②）を組合せて取り組みながら多様性・クリエイティビティといった浜松市の強みを最大化していきます。



## 推進体制：

市民・企業の主体的参加で創発性の高いエコシステムを形成していきます。



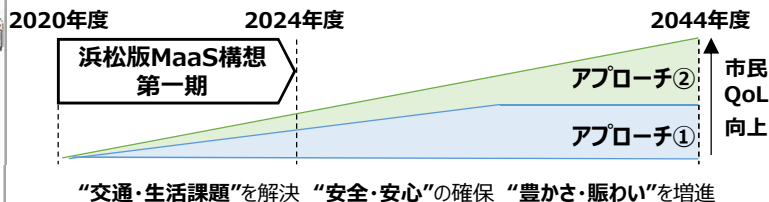
## 中核となる「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」

官民が連携し、モビリティサービスを生み出すプロジェクト創出を支援しています。「浜松市デリバリープラットフォーム」や「浜松テレワークパーク構想」など、様々なプロジェクトが立ち上がり、創発性の高いエコシステムを形成しています。

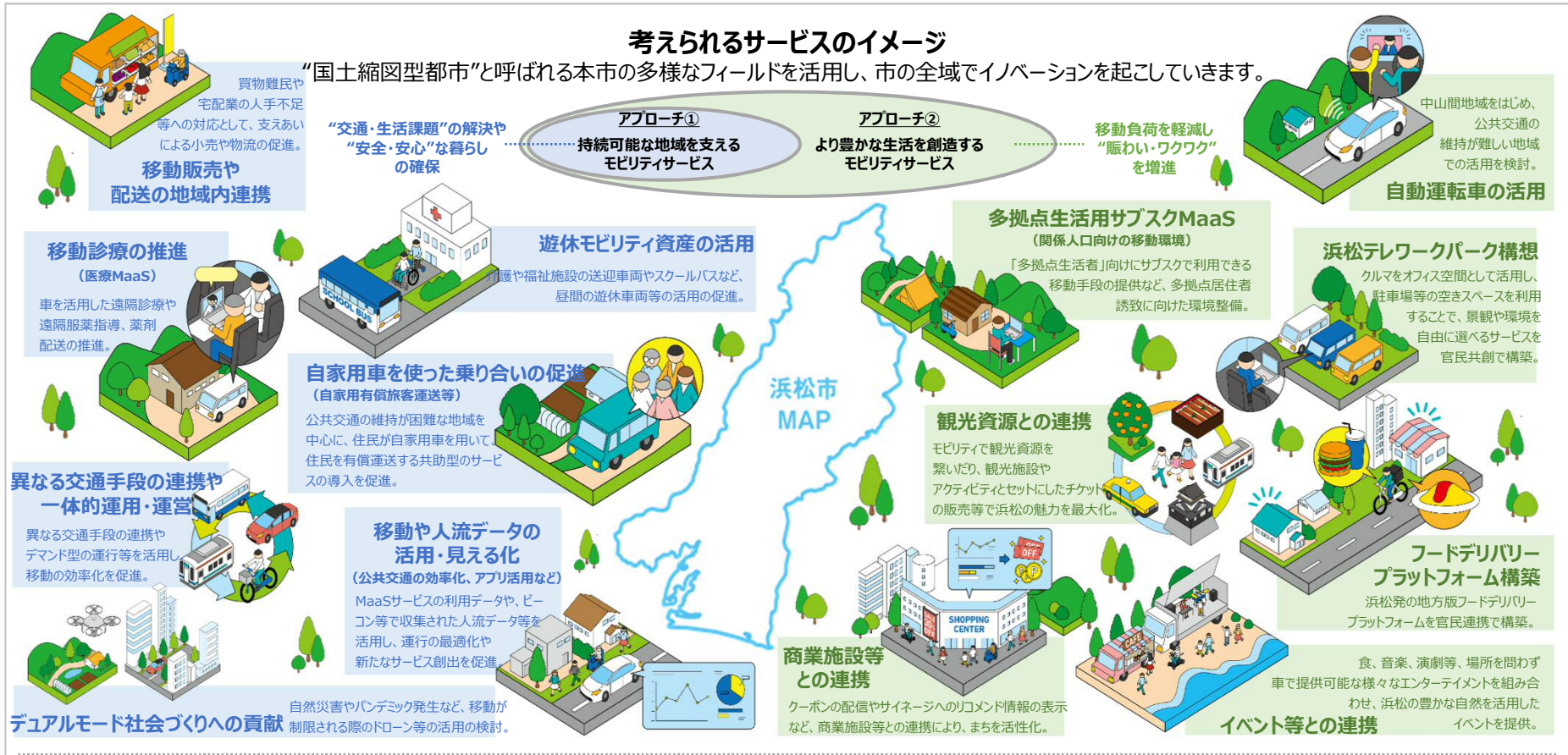


## ロードマップ：

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、交通・生活課題解決から着手し、モビリティサービスの連携や官民共創の取組を推進し、浜松版MaaSの基礎固めを行います。

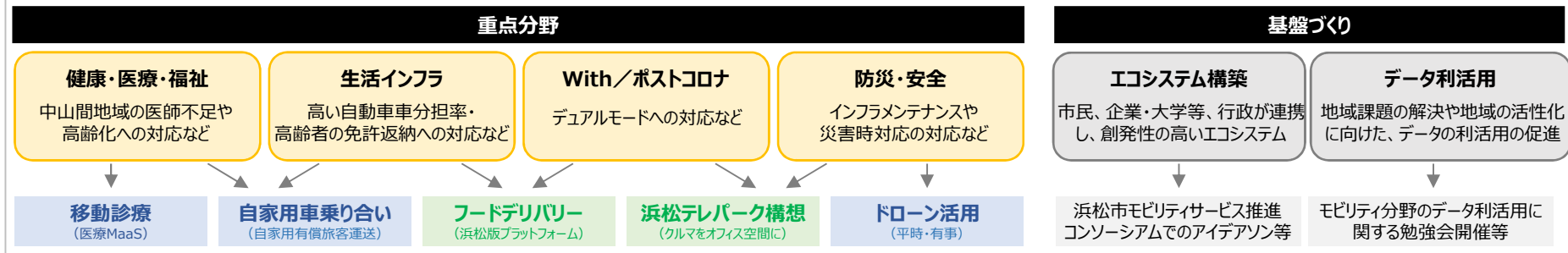






## 第一期（2020年度～2024年度）の取組

重点分野の取組と基盤づくりを推進し、本市が日本版MaaSを先導するエリアとなることを目指します。



# 浜松版MaaS構想（案）

Digital Smart City HAMAMATSU 

令和2年12月8日時点

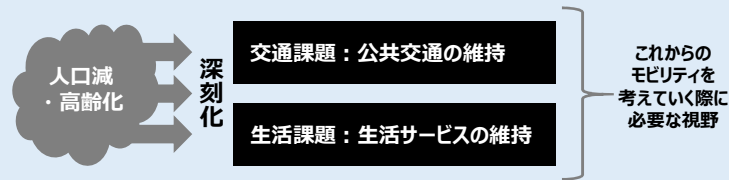


# I. 構想策定の背景

持続可能なまちづくりや生活サービスの維持・質の向上に向けて  
交通領域にとどまらず、市民の生活全般に関わるテーマとして捉えた“新たな発想のMaaS (\*①)”が求められています。

## 浜松市の現状と課題

- 人口減少・少子高齢化を背景とし、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面している。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティ (\*②) の連携による持続可能なまちづくりが求められている。

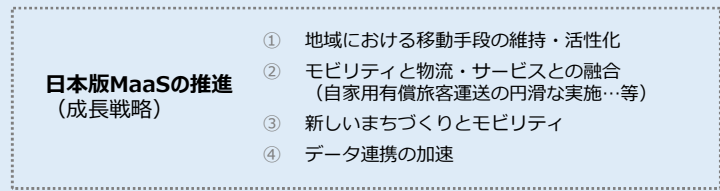


- 本市は「デジタルファースト宣言 (\*③)」のもとデジタル・スマートシティ (\*④)の取組を始動。分野間連携による市民QoL向上や都市の最適化に向けMaaSの取組との連携が求められている。

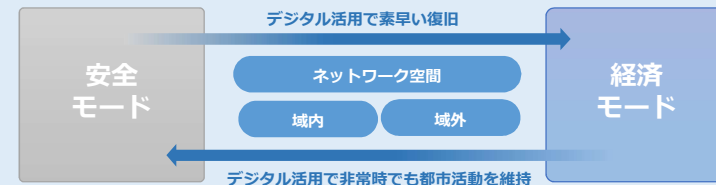


## 関連動向

- 国は、骨太の方針 (\*⑤) で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、地方都市の活性化に向けた環境整備の推進を位置づけている。移動環境の整備は重要施策の一つであり「自家用有償旅客運送制度の創設」や「日本版MaaSの推進」等の取組が成長戦略に位置づけられている。



- 「Withコロナ/ポストコロナ時代 (\*⑥)」の「ニューノーマル (\*⑦)」に対応した新たな環境整備の一つである「デュアルモード社会 (\*⑧)」の構築も求められている。

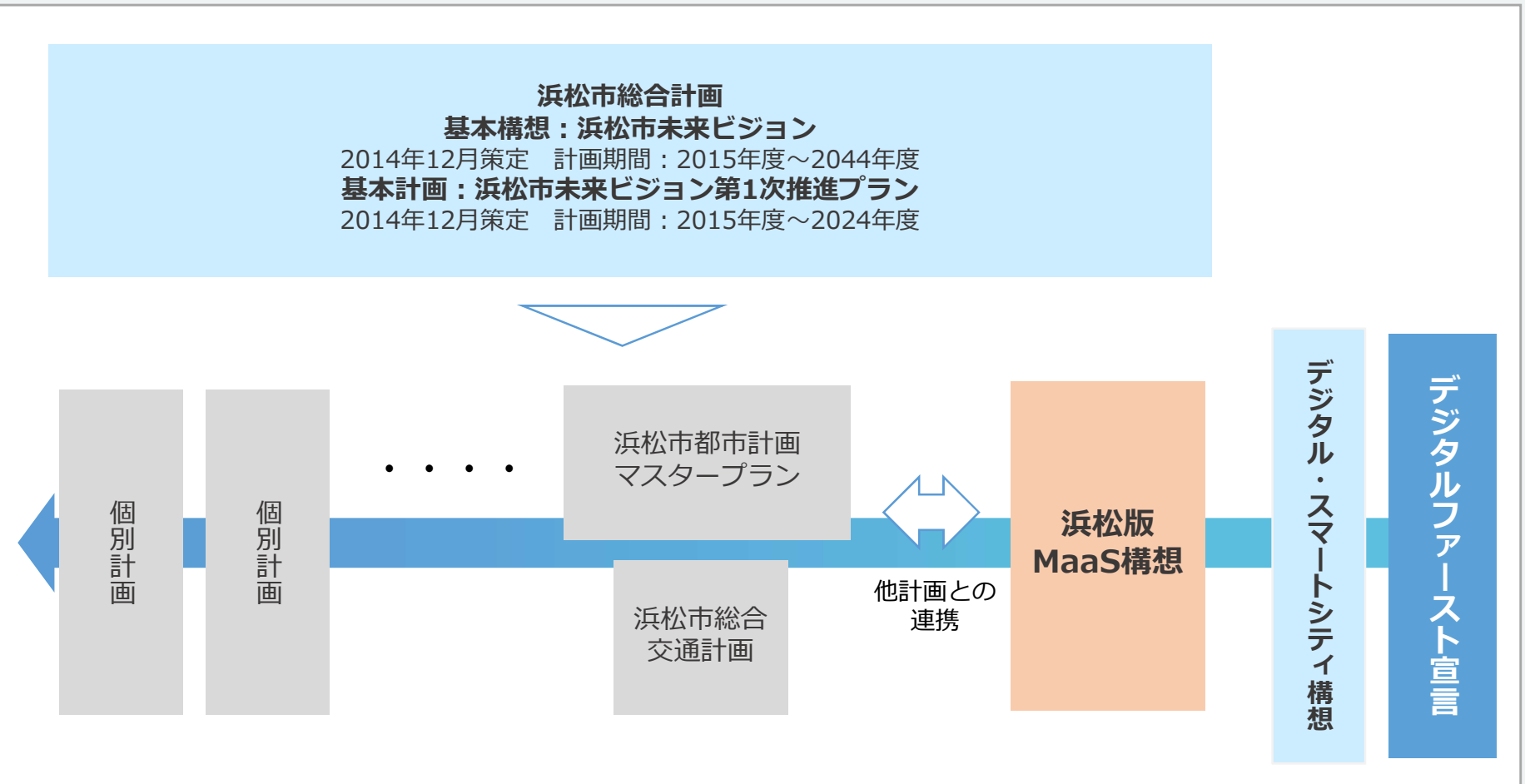


モビリティと各種サービスの連携により、持続可能なまちづくりを推進するにあたり、その指針として「浜松版MaaS構想」を策定して、市民のみならずと共有するとともに交通領域にとどまらない様々なプレイヤーによる共創を促していきます。

## II. 構想策定の趣旨／構想の位置づけ

本構想は、市民、企業・大学等、行政が主体的に参加し、地域課題解決や地域活性化に繋がるMaaSサービスを生み出す際の指針となるものです。

本構想は、本市の最上位計画である総合計画に基づく個別計画であるとともに、「浜松市都市計画マスタープラン」「浜松市総合交通計画」「浜松市デジタル・スマートシティ構想」等の他計画と連携しながら、交通課題に限らず多様な都市課題解決の取組の指針となります。



## Ⅲ. 構想に活かすべき本市の強み

構想策定にあたっては、浜松市ならではの**特徴や強みを活かす視点**を持ち、  
浜松市ならではの**MaaSを推進**していきます。

### 強み①

#### 多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境

- 都市部・郊外・中山間地域と、様々な暮らし方・楽しみ方ができる多様な環境（国土縮図型都市）。
- 新幹線や高速道路等、近隣都市圏とのアクセスが便利な交通環境。



### 強み②

#### 市民・企業の“やらまいか精神”や共助の心

- 「やってみよう」「やってやろうじゃないか」と、新しいことに果敢にチャレンジする精神、そして浜松を誇りに思い、互いに助け合う心が、オープンなイノベーションの土壌に。



### 強み③

#### ものづくり力

- 世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカーが集積しており、また同時にスタートアップグローバル拠点都市（\*⑨）でもある。大企業とスタートアップ（\*⑩）の共創・創発が生まれやすい環境。



## IV. 構想の目指す方向性（基本理念）

浜松市のヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”ことによって、持続可能でより豊かなまちづくりを目指します。

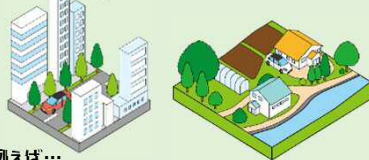
### ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と、浜松の暮らしはもっと輝く

人口減少・少子高齢化で限られたリソース（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。

さらに、“繋ぐ”ことでヒトの移動に留まらない価値を創出し、  
浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

#### 必要な視点1 地域ごとの魅力の最大化

- 都市部から中山間地域まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の多様な魅力を最大化します。

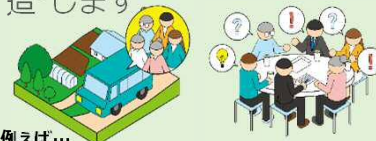


例えば…

- ◆ 豊かな文化を享受する都市の暮らし
- ◆ 自然に囲まれた暮らし
- ◆ 東京や大阪等の大都市との二拠点生活

#### 必要な視点2 ともに支え、ともに創造

- 人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します



例えば…

- ◆ 自家用有償旅客など、公共交通事業者だけに依存しすぎない市民も参加しての移動環境づくり
- ◆ アイデアソン等、みんなで考える機会の設置

#### 必要な視点3 しなやかに繋がる

- 利用者目線のシームレス（\*⑩）なサービスや自然災害・パンデミック（\*⑪）への備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します。



例えば…

- ◆ ヒトだけでなく、モノ・コトの移動も含み最適化
- ◆ 様々な状況に応じて、ヒト、モノ、コトの移動が柔軟に繋がるサービスの設計

#### 必要な視点4 市民起点でのまちづくり

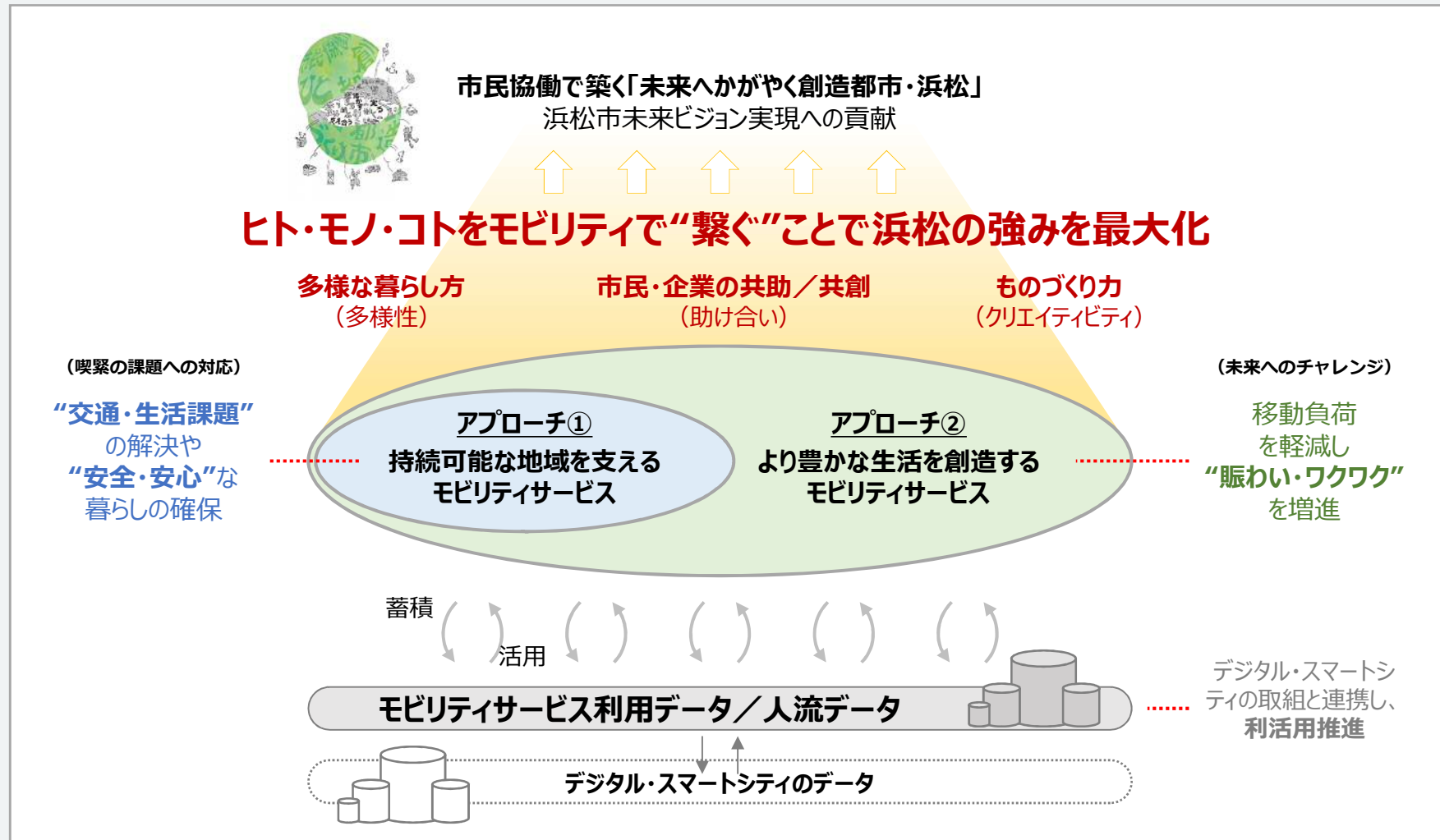
- デジタルテクノロジーは手段として捉え、市民の生活ニーズからサービスを発想します。



例えば…

- ◆ 技術ありきではなく、市民の生活ニーズから発想（デジタルテクノロジーはあくまで手段）

喫緊の課題への対応と未来へのチャレンジを組合せて取り組みながら  
多様性・クリエイティビティ (\*⑬) といった浜松市の強みを最大化していきます。



# V. モビリティサービス (取り組み例)

“交通・生活課題”の解決や、  
“安全・安心”な暮らしの確保に貢献

アプローチ①  
持続可能な地域を支える  
モビリティサービス

アプローチ②  
より豊かな生活を創造する  
モビリティサービス

移動負荷を軽減し  
“賑わい・ワクワク”を増進





# V-1. 持続可能な地域を支えるモビリティサービス（取り組み例）

Digital Smart City HAMAMATSU

**アプローチ①**  
持続可能な地域を支える  
モビリティサービス

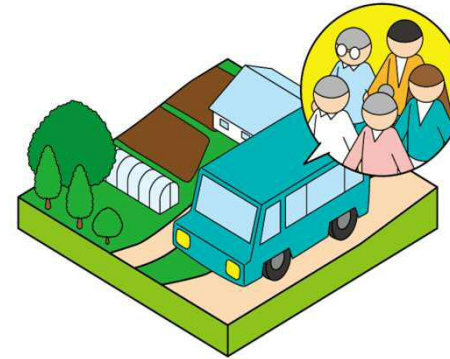
**アプローチ②**  
より豊かな生活を創造する  
モビリティサービス

“交通・生活課題”の解決や、“安全・安心”な暮らしの確保に貢献



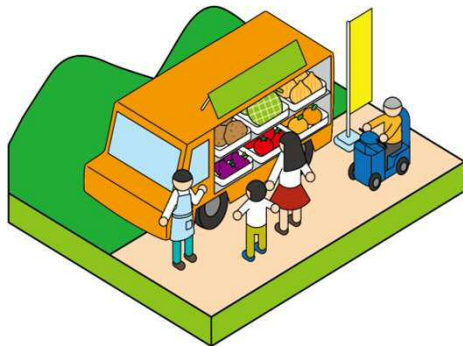
## 移動診療の推進 (医療MaaS)

車を活用した遠隔診療や遠隔服薬指導、薬剤配送の推進。



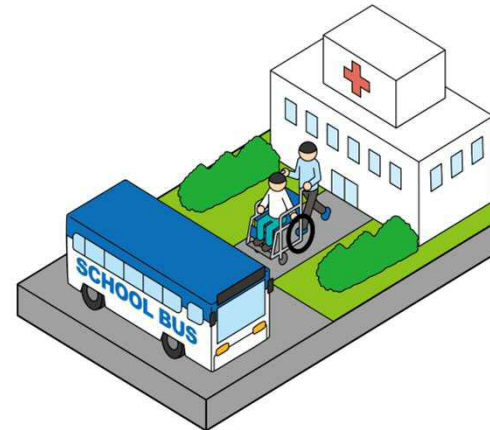
## 自家用車を使った 乗り合いの促進 (自家用有償旅客運送 (\*14) 等)

公共交通の維持が困難な地域を中心に、住民が自家用車を用いて、住民を有償運送する共助型のサービスの導入を促進。



## 移動販売や 配送の地域内連携

買物難民や宅配業の人手不足等への対応として、支えあいによる小売や物流の促進。



## 遊休モビリティ 資産の活用

介護や福祉施設の送迎車両やスクールバスなど、昼間の遊休車両等の活用の促進。

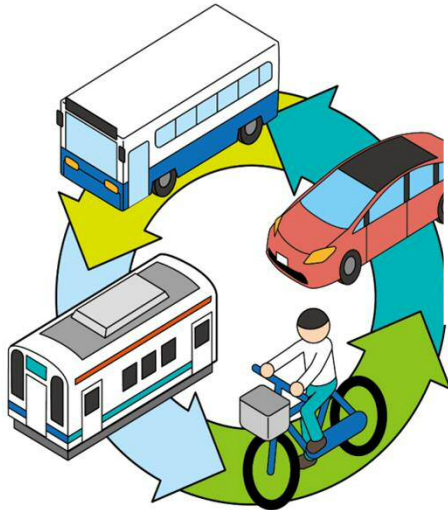
# V-1. 持続可能な地域を支えるモビリティサービス（取り組み例）

Digital Smart City HAMAMATSU

**アプローチ①**  
持続可能な地域を支える  
モビリティサービス

**アプローチ②**  
より豊かな生活を創造する  
モビリティサービス

“交通・生活課題”の解決や、“安全・安心”な暮らしの確保に貢献



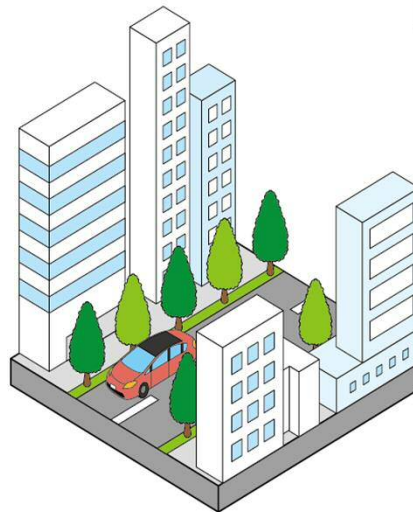
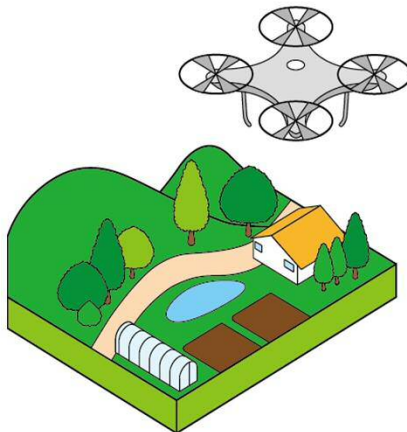
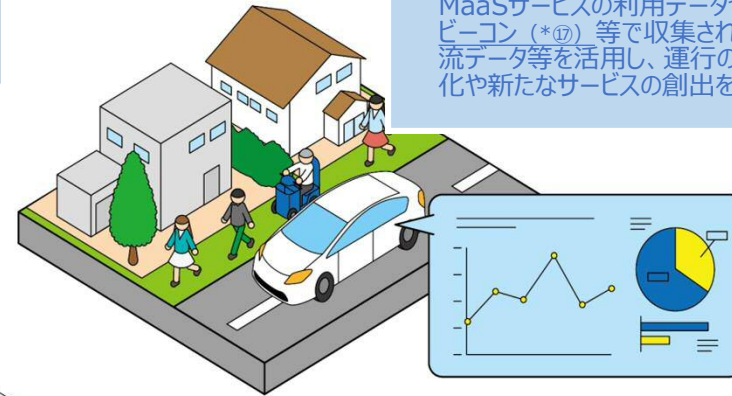
## 異なる交通手段の連携や 一体的運用・運営

異なる交通手段の連携やデマンド型  
(\*15)の運行等を活用し、移動の  
効率化を促進。

## 移動や人流データの 活用・見える化

(公共交通の効率化、アプリ(\*16)活用など)

MaaSサービスの利用データや、  
ビーコン(\*17)等で収集された人  
流データ等を活用し、運行の最適  
化や新たなサービスの創出を促進。



## デュアルモード社会づくりへの貢献

自然災害やパンデミック発生など、移動が制限される際のド  
ローン等の活用の検討。

# V-2. より豊かな生活を創造するモビリティサービス（取り組み例）

**アプローチ①**  
持続可能な地域を支える  
モビリティサービス

**アプローチ②**  
より豊かな生活を創造する  
モビリティサービス

## 移動負荷を軽減し“賑わい・ワクワク”を増進



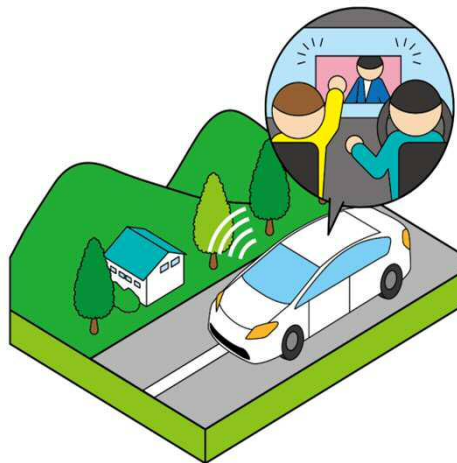
### フードデリバリー プラットフォーム (\*18) 構築

浜松発の地方版、フードデリバリープラットフォームを官民連携で構築。



### 浜松テレワークパーク構想

クルマをオフィス空間として活用し、駐車場等の空きスペースを利用することで、景観や環境を自由に選べるサービスを官民共創で構築。



### 自動運転車の活用

中山間地域をはじめ、公共交通の維持が難しい地域での活用を検討。



### 観光資源との連携

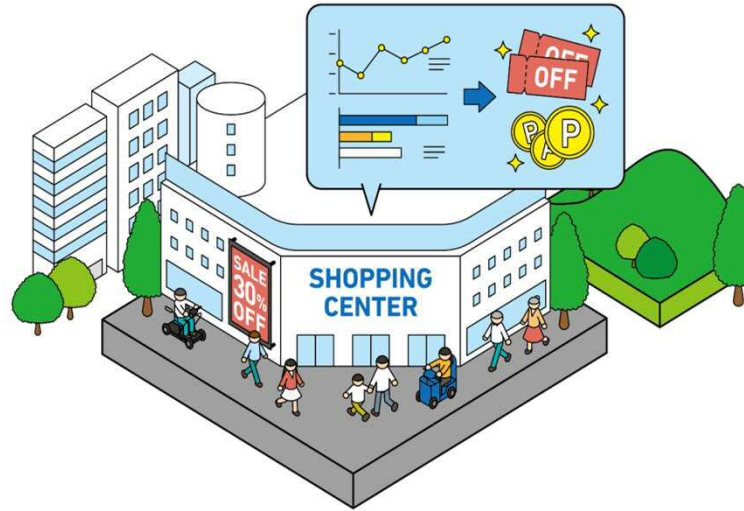
モビリティで観光資源を繋いだり、観光施設やアクティビティとセットにしたチケットの販売等で浜松の魅力最大化。

# V-2. より豊かな生活を創造するモビリティサービス（取り組み例）

**アプローチ①**  
持続可能な地域を支える  
モビリティサービス

**アプローチ②**  
より豊かな生活を創造する  
モビリティサービス

## 移動負荷を軽減し“賑わい・ワクワク”を増進



### 商業施設等との連携

クーポンの配信やサイネージ（\*  
①）へのリコメンド情報（\*②）の  
表示など、商業施設等との連携に  
より、まちを活性化。



### 多拠点生活用 サブスクMaaS（\*<sup>①⑨</sup>） （関係人口向け（\*<sup>②⑩</sup>）の移動環境）

「多拠点生活者」向けにサブスク  
で利用できる移動手段の提供など、  
多拠点居住者誘致に向けた  
環境整備。



### イベント等との連携

食、音楽、演劇等、場所を問わず車で提供可能  
な様々なエンターテインメントを組み合わせ、  
浜松の豊かな自然を活用したイベントを提供。

# V-3. データ利活用について

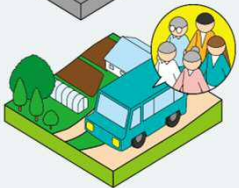
## データを活用し地域の課題を解決。 持続可能で豊かな地域環境を目指す。

### ■ 地域交通の効率化・生活インフラの維持



<活用イメージ>

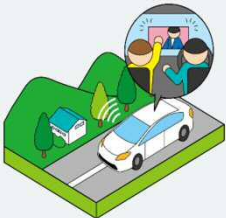
- 自家用有償・乗り合いサービス
- バスルートの最適化
- 移動診療・移動販売



<データ例>

- 自動車GPS (\*23) /コネクテッド (\*24)
- モノ・サービス移動ログ (\*25)

### ■ 渋滞や事故軽減・移動手段の連携



<活用イメージ>

- 交通事故の軽減対策
- 交通機関統合サービス
- 乗り合い

<データ例>

- 市民GPSログ
- 自動車GPS/コネクテッド
- バス・タクシーGPS/ビーコン
- 公共交通ダイヤ/事故情報



### ■ 地域活性化

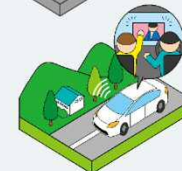


<活用イメージ>

- 広告/クーポン配布
- 個々人に最適化された商品提供
- 移動を含む観光パッケージ

<データ例>

- 市民GPSログ
- バス・タクシーGPS/ビーコン
- 観光地・周辺施設情報



# VI. 推進体制

市民、企業・大学等、行政がそれぞれの役割を持ち、それぞれが主体的に参加する創発性の高いエコシステム (\* ㉔) を形成。  
エコシステムの活動を通じて、地域課題解決・地域活性化に資するサービスやソリューション (\* ㉕) を生み出していきます。

持続可能なまちづくりの主演として市民自らが役割を担い、行政や企業と共に新たな取組を考え、その担い手となっていく。

エコシステムに積極的に参加して他社や市民との共創により新たな取組を創出。自社事業として持続的に運営を担う。



共助・共創のファシリテーター役。企業や市民が参加するエコシステムを運営し、新たな取組の創出を支援する。

## 「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」を中核とした、エコシステムの形成

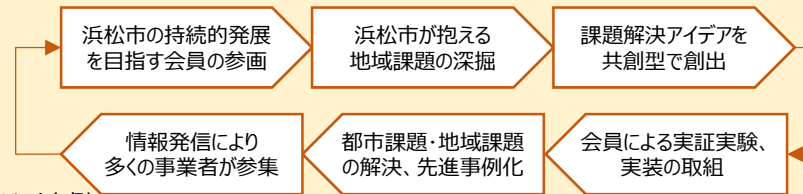


「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」は、モビリティサービスの観点から浜松市の持続可能な発展を目指して、令和2年4月に設立。官民が連携し、これからの浜松市に必要なモビリティサービスを生み出すプロジェクト創出を支援し、会員同士の意識共有や新たなつながりを創出しています。

「浜松市デリバリープラットフォーム」や「浜松テレワークパーク構想」など、様々なプロジェクトが立ち上がり、創発性の高いエコシステムを形成しています。

## 浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム

浜松市の新しいモビリティサービスを考えるアイデアソンなど、会員主導のプロジェクト創出支援を実施。



※市内のプロジェクト例

### 浜松市デリバリープラットフォーム

コロナ禍で影響を受けた飲食店を支援するために、官民が連携して、飲食店・消費者・宅配事業者などをオンラインで結ぶデリバリープラットフォームを形成。



### 浜松テレワークパーク構想

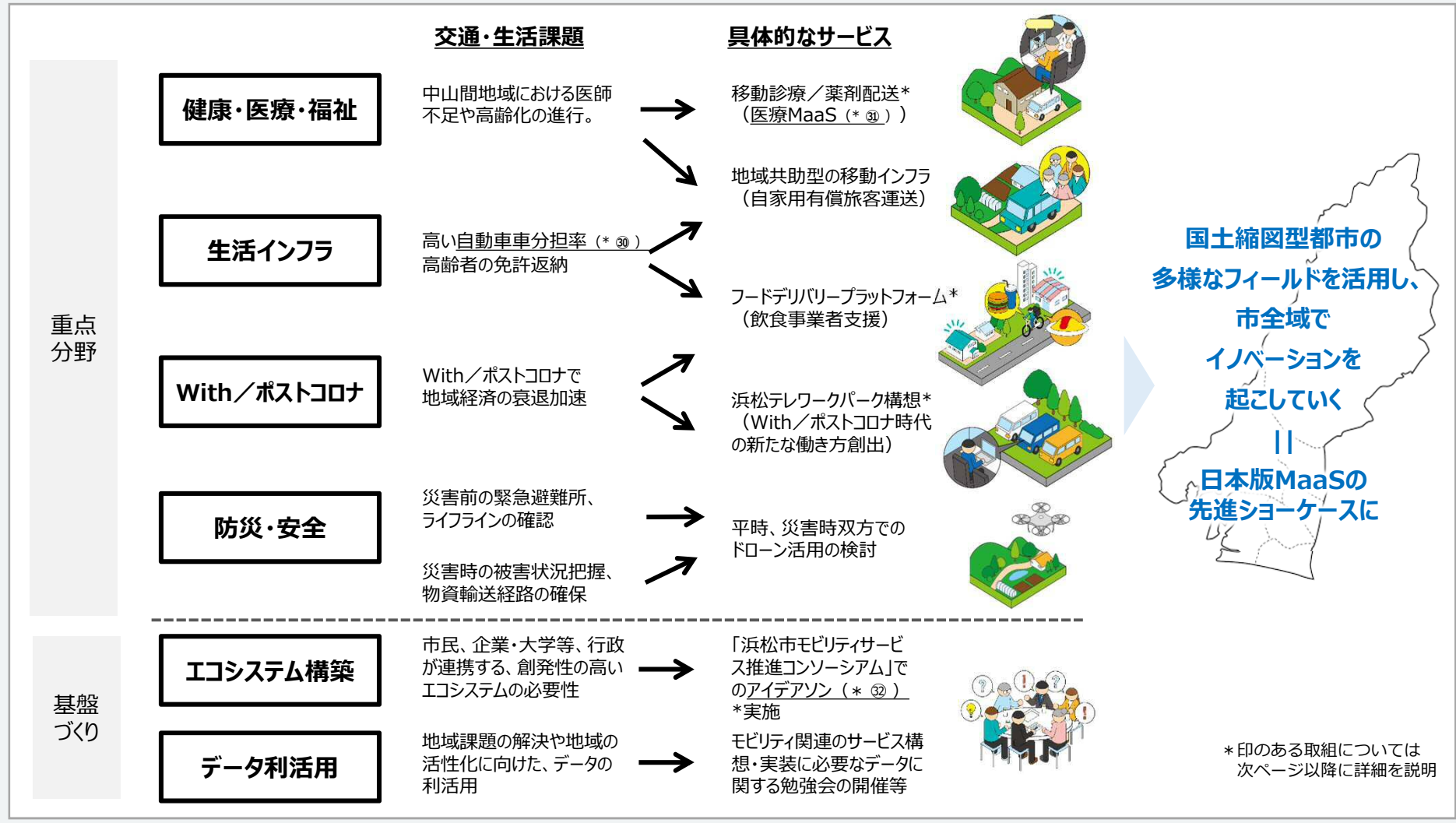
車や駐車場を活用することでより良いテレワーク環境をつくり、浜松市を挙げてテレワークを促進するための官民連携の構想。





# Ⅷ. 第一期（2020～2024年）の取り組みイメージ

構想第一期は、官民連携による創発性の高いエコシステムづくりや、データ利活用に関する研究等、MaaS構想の基盤づくりに取り組むとともに  
**重点分野として「健康・医療・福祉」「生活インフラ」「with/ポストコロナ」「防災・安全」を設定し国土縮図型都市である浜松市の多様なフィールドを活用して、本市全域でイノベーション（\* ㉔）を推進。**  
 これらの取組を通じて、浜松市が日本版MaaSを先導するエリアとなることを目指します。



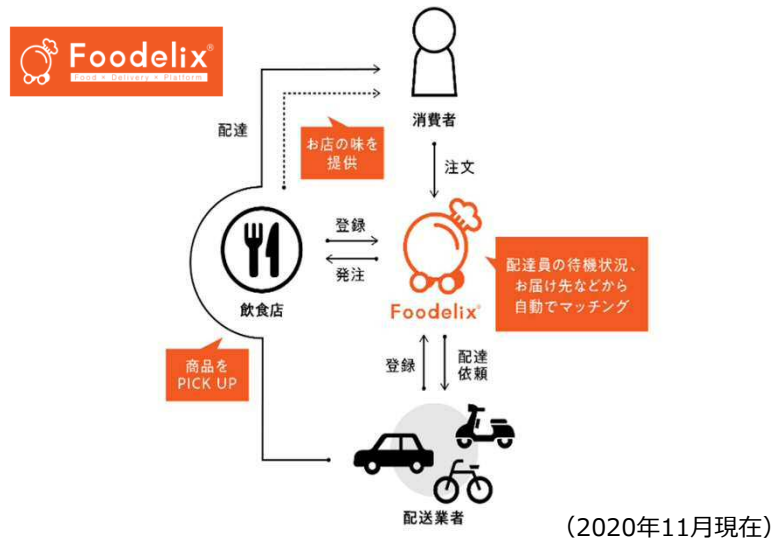


## フードデリバリープラットフォーム

**浜松市の地域特性に合わせた新しいデリバリー&テイクアウトプラットフォームサービス、「Foodelix」の構築。**

コロナ禍でテイクアウトニーズが増える一方、事業者単位でサービス実装を行っている為、決済・配送エリアもサービスによって異なり利用者としては使いづらいという課題と、デリバリーサービスを利用したい事業者のノウハウ不足という課題を解決する為に注文、決済、配送までの一元的に管理できるデリバリー&テイクアウトプラットフォームシステムを構築。

浜松市、静岡県内のシステム開発会社(株)こころ、(株)日本シャルフ、(株)サンロフト4者で立ち上げ、2020年10月から運用を開始しています。



## 春野医療MaaSプロジェクト

**医療資源の乏しい中山間地域で、「医療を届ける」モデルの構築に向けた実証実験を、天竜区春野町で実施。**

天竜区は、高齢化が進行し、マイカー依存度が高く、今後、高齢者が免許返納等により自家用車での移動が困難になることが懸念されます。地域交通等の衰退による通院困難、地域の医療課題（医師不足、診療所の経営危機）により、将来適切な医療サービスの継続が困難になる可能性があるため、中山間地域において通院困難な高齢者に「医療を届ける」モデルの構築を目指す実証実験を実施。

実証実験では、移動診療車を用いたオンライン診療を行い、オンライン診療を受診した患者に対して医師や薬剤師と連携してオンラインでの服薬指導やドローンなどを使った薬剤配送も行います。実験を通じて、それらの運用上の課題を検証していきます。



[https://ligare.news/story/hamamatsucity\\_haruno\\_maas/](https://ligare.news/story/hamamatsucity_haruno_maas/)

(2020年11月現在)

## 浜松テレワークパーク構想

### 駐車場をコワーキングスペース (\* ③) として活用する事で浜松ならではの新たな働き方を提案。

コロナ禍で企業に求められたテレワークへの取り組みによって起きた「仕事ができる個室の確保」「コミュニケーション不足から起きる寂寥感」等の課題を解決するために、駐車場をコワーキングスペースとして活用する事で新たな働き方を提案する「浜松テレワークパーク実現委員会」を We will Accounting Associates(株)、スズキ(株)、(株)東海理化、浜松市の4者で設立。

多拠点居住や関係人口拡大に貢献するサービスとして、2021年4月度以降の事業化を目指し、2020年11月より移動オフィスとコワーキングスペースの実証実験を開始しました。



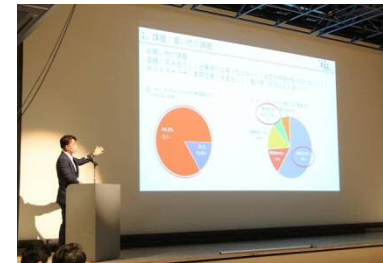
(2020年11月現在)

## アイデアソン

### 新しいモビリティサービスアイデア創出に向けて、モビリティコンソーシアム参加企業同士での「意識共有」、「関係構築」、「価値創造」を促進する事を目的とした、 企業共創型サービス創発プログラムを実施。

浜松市の課題視点で、それぞれの参加企業がサービスを創造していく事をサポートできる様に、Maas、スマートシティ最新事例のインプット、浜松市の課題の深堀、共創型のサービスアイデア発想等のプログラムを用意。初年度は9社の参加企業がサービスアイデアの発表を行い、浜松市長始め、コンソーシアム幹事企業の皆様方からもご講評を頂き、各アイデアのサービス具体化に向けたサポートに貢献する施策となりました。

今後も本プログラムを定期的実施していきながら、浜松市民の生活の質を向上させる新しいモビリティサービスアイデア創出とプロジェクト具現化のきっかけの場として推進していく予定です。



(2020年11月現在)

## IX. 用語の解説 (1/2)

- |                             |  |
|-----------------------------|--|
| <b>1. MaaS</b>              | Mobility as a Serviceの略。複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となる |
| <b>2. モビリティ</b>             | 乗り物等、ヒトの移動に関わる用語   |
| <b>3. デジタルファースト宣言</b>       | 令和元年10月31日に発出。「データ活用や地域課題解決を通じたイノベーションの活性化」「デジタル化による生産性向上」「デジタル技術やデータの活用による市民生活の快適化」を目指すことを宣言。   |
| <b>4. デジタル・スマートシティ</b>      | 「デジタルファースト宣言」の3つの戦略分野の1つである「都市づくり」における政策。データや先端技術を最大限に活かし、産業の活性化や都市機能の高度化を目指す。   |
| <b>5. 骨太の方針</b>             | 国の経済対策等の基本骨格を示したもの。  |
| <b>6. Withコロナ/ポストコロナ時代</b>  | 新型コロナウイルスの流行に即した今とこれからの時代を指す   |
| <b>7. ニューノーマル</b>           | 新型コロナウイルス感染症の流行を経て移行する人々の行動・意識・価値観の新たな常態・常識のこと。  |
| <b>8. デュアルモード社会</b>         | 経済効率を重視する「経済モード」と、国民の健康と安全とを最優先にする「安全モード」の2つのモードを新型コロナウイルス感染症の状況に応じて適宜切り替える社会。   |
| <b>9. スタートアップグローバル拠点都市</b>  | 内閣府が経済面や技術面など様々な支援を行うことで世界と同等に戦える日本企業の創出を目指し、全国に設置している都市   |
| <b>10. スタートアップ</b>          | 短期間で、イノベーションや新たなビジネスモデルの構築、新たな市場の開拓を目指す動きの事  |
| <b>11. シームレス</b>            | 機能やサービスがよく連携していて利用者にとって快適であるという意味  |
| <b>12. パンデミック</b>           | 世界的大流行の意   |
| <b>13. クリエイティビティ</b>        | 「想像力」「独創力」の意   |
| <b>14. 自家用有償旅客運送</b>        | バス、タクシー等が運行されていない過疎地域などで、登録を受けた市町村、NPO等が自家用車を用いて住民を有償で運送する事  |
| <b>15. デマンド型</b>            | 利用者の事前予約に応じる形で運行経路や運航スケジュールをそれに合わせて運行する公共交通のこと   |
| <b>16. アプリ</b>              | 携帯電話上でなんらかの作業をする為のソフトウェア   |
| <b>17. ビーコン</b>             | Bluetoothを使って、何かを誘導したり、信号を送ったりする情報収集・発信サービス  |
| <b>18. フードデリバリープラットフォーム</b> | 飲食のデリバリー、テイクアウトにおいて発注・決済から配達依頼、配送までを一元管理する仕組み  |
| <b>19. サブスクMaaS</b>         | 一定期間の利用権を定額性で支払う方式でサービスを受けられるモビリティサービス   |
| <b>20. 関係人口</b>             | 特定の地域と多様に関わる人々を指す言葉  |

- |                |  |
|----------------|--|
| 21. サイネージ      | 表示と通信にデジタル技術を活用して平面ディスプレイやプロジェクタ等によって映像や文字情報を表示するモノ                    |
| 22. リコメンド情報    | プロフィールや行動履歴から興味・関心がありそうなモノ・コトを予測した情報                                   |
| 23. GPS        | 地球上の現在位置を、人工衛星からの電波で測り知る装置   |
| 24. コネクテッド     | インターネットに常時接続されるモノ  |
| 25. 移動ログ       | 特定のヒトやモノの移動履歴  |
| 26. エコシステム     | 複数の企業や団体がパートナーシップを組み、それぞれの技術や強みを生かしながら、業種・業界の垣根を越えて共存共栄する仕組み、ビジネス上の生態系 |
| 27. ソリューション    | 問題を解決する事   |
| 28. 市民QOL      | Quality of Lifeの略。人々の幸福感・効用など、社会のゆたかさや生活の質のこと。                         |
| 29. イノベーション    | これまでにない新しいサービスや製品などを生み出すこと   |
| 30. 自動車分担率     | 自動車、バス、鉄道、自転車、徒歩などの移動手段において、自動車がどれくらいの割合で使われているかという割合を示す数値             |
| 31. 医療MaaS     | モビリティとデジタルの力によって、医師不足や高齢化等従来の医療課題を解決する新しい医療サービス                        |
| 32. アイデアソン     | 「アイデア」と「マラソン」を組み合わせた造語で、アイデアの創出を目的としたイベントを指す。                          |
| 33. コワーキングスペース | 異なる職業や仕事を持った人たちが同じ場に集まり、共有している作業場                                      |

## 5 浜松市内のモビリティ関連のプロジェクトについて



## ■プロジェクト名称

春野医療MaaSプロジェクト ※経産省採択プロジェクト

## ■実施団体

浜松市、浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム、（一社）磐周医師会、仁成堂 小澤医院、MONET Technologies(株)、ソフトバンク(株)、(株)杏林堂薬局、(株)トラジェクトリー、(株)博報堂

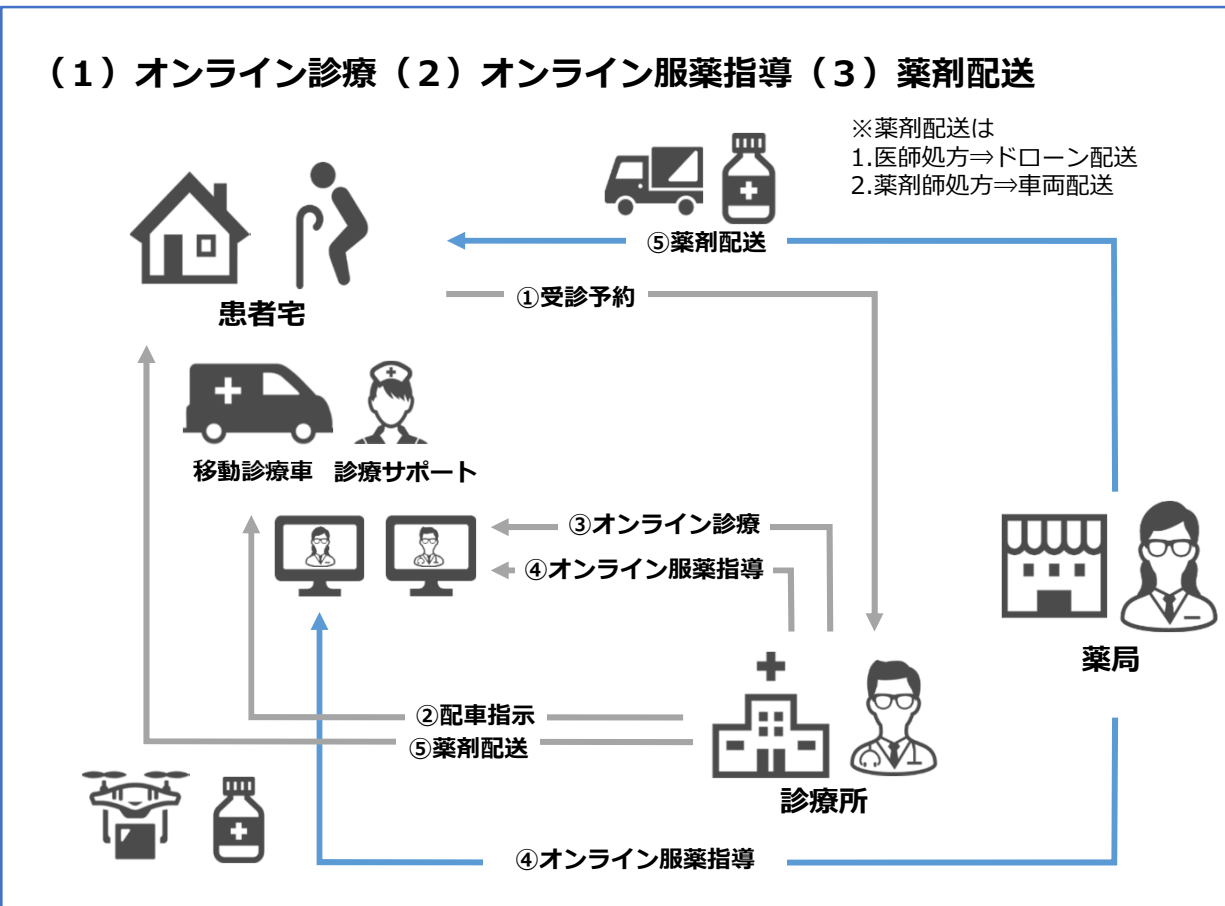
## ■背景・目的

**◆天竜区の課題**  
浜松市のなかでも高齢化が進行している中山間地域の天竜区（高齢化率約42%）では、高齢者の通院困難、医師不足、診療所の経営危機に直面している。

**◆目的**  
医療資源の乏しい中山間地におけるオンライン診療とオンライン服薬指導、薬剤の配送の運用面や採算性の検証を行う。

**◆実証概要**  
往診患者を対象に移動診療車を用いてオンライン診療を実施し、またオンライン診療を受診した患者に対して、診療所の医師やドラッグストアの薬剤師と連携してオンライン服薬指導を行い薬剤配送を実施する。

## ■概要



## ■プロジェクト名称

浜松テレワークパーク実証実験

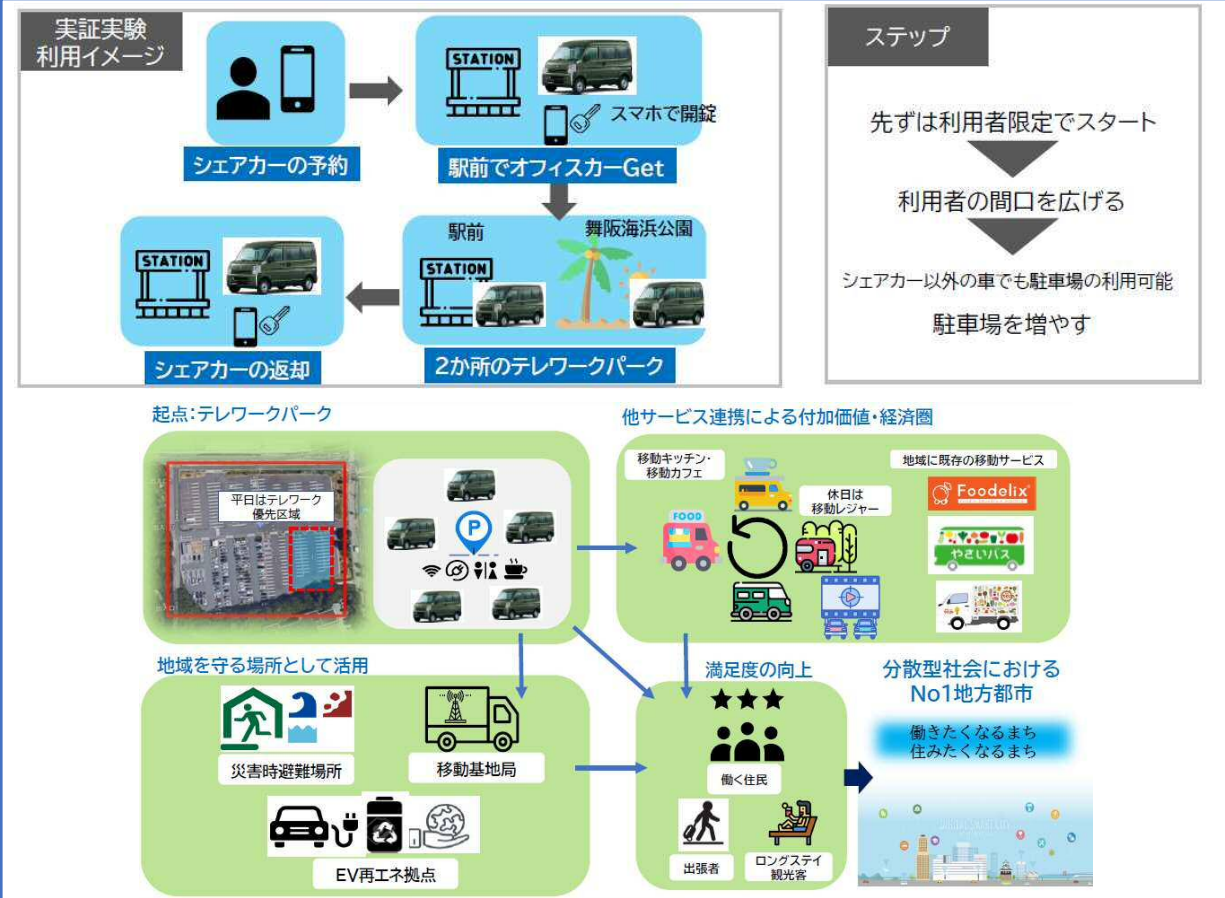
## ■実施団体

テレワークパーク実行委員会（浜松市・WeWill Accounting Associates・東海理化・スズキ）

## ■背景・目的

- ・コロナ後のテレワーク推進の中、落ち着ける個室が無い、自宅に籠ることによるストレスや孤独感といった課題の解決。
- ・特に平日は空いており遊休スペースとなってしまう駐車場の有効活用。
- ・街～海～山～川～湖といった多様な市域を持ち、都市部と自然が近いといった浜松の特徴を活かした、新しい働き方の提案。

## ■概要



# 浜松市内で実施している（又は実施予定）モビリティ関連のプロジェクト

Digital Smart City HAMAMATSU

## ■プロジェクト名称

【実証実験サポート事業】自動運転による超小型モビリティの公道走行

## ■実施団体

PerceptIn Japan 合同会社、浜松市、株式会社マクニカ

## ■背景・目的

世界経済フォーラムの2020年1月のレポート『日本と世界の地方のモビリティの変革』は、「日本の地方のモビリティに対する需要の減少が、モビリティシステムに深刻な経済的負担をかけている。この低収益性は人口密度が低いことによって引き起こされる構造的な問題である」という問題提起をしています。そして、「今後10年間で過疎地域が世界中に広がるにつれて、地方のモビリティの重要性が増すだろう。新しいソリューションの開発が重要になる。そして、さらに重要なことは、ユーザーがそれを本当に必要としていることだ」と結論づけています。私たちパーセプティンは、低速の小型EVを使用した自動運転タクシーのソリューションMopiを提供します。Mopiは毛細血管のように、人々の移動を「まち」の隅々まで浸透させて「まち」を元気にすることができると信じています。

## ■概要

高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部の官民ITS構想（2020.7.15）のロードマップには、2020～2022年頃に遠隔操作及び監視有りの自動運転による、混在空間（生活道路等）における低速の小型モビリティサービスを開始すると記されています。今回の実証実験は、「自動運転レベル3 + 遠隔操作及び監視」による社会実装に向けたステップとして、実際にラストワンマイル問題を抱える浜松市の中山間部の水窪地域において公道実証実験を行い、利用者の意見収集、及び運用における課題を明確化することが目的です。

・日時：11月21日（土）～24日（火）の4日間  
9：00～12：00、13：00～15：00

・走行ルート〈天竜区水窪町〉  
「スーパーやまみち」から「水窪橋」までの市街地旧道約2キロの区間  
途中3カ所に停留所を設置（片道4区間）

・試乗  
地元住民に加え、報道機関等向けにも試乗を実施  
乗車人数は各区間1名（テストドライバーが同乗）  
ご試乗された方からアンケート





## 6 意見交換

